

あなろぐの会とは

山口県周南市に拠点のある、1型糖尿病の患者会です。事務局は医療機関ではなく、患者の個人宅としており、“患者による患者の為の活動”を行っています。

成人(大人)ならではの悩み、酒の席での注射や、カミングアウトする場所、職場・家族・主治医と上手につきあい、発病前よりも元気になる交流を目的としています。

一年を通じて、定期的な交流会・懇親会・講演会を企画しております。リアル交流が得意ではない方も、『見て参加』できるTwitter Facebook ページを用意しています。

- ・平成28年度 周南市ふるさと振興財団助成金取得「自分らしく病気とつきあう」講演会
- ・平成29年度 きらめき活動助成事業 助成金取得「熊本地震難病センターでできたこと」講演会
- ・平成30年度 きらめき活動助成事業 助成金取得「病気を持つ人に必要な防災の備え」講演会



登録情報

・周南市 市民活動グループバンク

<http://shunan-chiikijoho.jp/shimin/abshosai.php?tourokubangou=487>

・山口県 県民活動スーパーネット

http://www.kenmin.pref.yamaguchi.lg.jp/kokai/dantai/dantai_d.php?no=1604



メンバーの声



インシュリン注射を始めて25年になります。

その間に、出産、育児、介護、更年期など生活、体の変化を体験してきました。そんな時、家族、友人（同じ病気を持つ人を含む）医療者などの助言や知恵に助けられてきました。

「あなろぐの会」の交流の中で、これから先が、明るく、楽しくなる様な時間が持てたらいいなあと思います。

あ～ちゃん 50代 女性

メンバーの皆さんとの交流では、病気についてもまたそうでない事も、気軽に話せる雰囲気があり、嬉しく思っています。

また、血糖値のコントロールやカーボ（炭水化物）をテーマにしたイベントに参加できるのが、“あなろぐの会”ならではの魅力です。

40代 T.S



あなろぐの会 1型糖尿病大人の会

URL : <http://analog-kai.org/>

Mail : info@analog-kai.org [岸田]

電話:080-1910-8746 [古川]

▼アカウントが無くても閲覧できます



Twitter : twitter.com/analog_kai/



Facebook: facebook.com/analogkai/



1型糖尿病大人の会 あなろぐの会

～ ご案内 ～
2018年版



- ・1型糖尿病の患者会です。
- ・山口県内でアナログな活動、ネット上でデジタルな活動をしています。
- ・アナログ交流＋インスリンアナログを合わせた名称です。

▽ 2015年10月設立

- Web（ホームページ）
- Facebook
- Twitter

にて、情報配信しております。

春



バーベキュー



田植え

周南市 市民活動
情報誌 YUI(結)
平成29年 夏号 vol.55
「活動レポート」



http://shunan-chiikijoho.jp/wp-content/uploads/2017/09/yui55_report.pdf

夏



病気を持つ方向け講演会の主催

秋



芋ほい



冬



餅付き&門松作り



活動レポート あなろぐの会 (1型糖尿病大人の会)

今回は、1型糖尿病の患者会として交流会や講演会の開催等を行っているグループをご紹介します。

1.1 1型糖尿病とはどのような病気ですか。

(岸田) 血糖を下げるホルモン：インスリンが全く、もしくはほとんど分泌されなくなる病気です。そのため、1型糖尿病患者は1日数回自分でインスリン注射をして生活しています。遺伝的要因や生活環境等が原因で発症する2型糖尿病とは異なり、発症の原因には正確には解明されておらず、いつ誰が発症するかは分かりません。また、再生医療の分野で研究が行われているものの、インスリン注射以外の治療法はなく、現時点では完治させることはできません。

(古川) 難病指定はされていないため、医療費の自己負担額は通常と変わりません。ただ、発症したからといって普通の生活が送れないわけではありません。食べるものに制限はありませんし、1型糖尿病のアスリート選手の方もいらっしゃいます。

2. 会を運営したきっかけや経緯を教えてください。

(古川) 当会では成人患者を主な会員として位置付けていますが、設立の背景には「成人後に1型糖尿病を発症した方に手を差し伸べられる環境が整っていない」という問題がありました。県内には「山口会」という1型糖尿病の患者会があり、小児患者の場合は県が県児特定慢性疾患の手続きをする関係で所在を把握しているため、県から「山口会」が紹介されます。しかし、成人患者の場合は県が所在を把握していないため、成人後に1型糖尿病を発症した方は自分で患者会を探さなければなりません。私自身も成人後の発症であったため、10年ほどは患者会の存在を知らずに過ごしていました。

その後私は「山口会」に入会し、様々な情報を得られるようになりました。そしてある日、「山口会」の成人患者で集まって話をしたところ、それぞれの生活の工夫に違いがあることが分かりました。そこで、こうやって定期的に成人患者同士で情報交換をする場がほしいと思ったことや、成人後に1型糖尿病を発症した方に情報を伝え、様々な不安を解消する手助けをしようと思ったことから「山口会」で知り合った岸田さんに声をかけ、2015年10月に会を立ち上げました。

3. 年に数回、インスリンの注射量の調整を体験する交流会が行われていますね。

(岸田) バーベキュー、餅つき、芋掘り等、様々な状況で飲食をし、血糖値の変動とインスリンの注射量の調整を体験しています。血糖値は体質、運動量、季節によって変わります。また、病院は食事とインスリンの注射量についての指示をくれますが、毎日同じものを食べるわけではありませんし、お菓子を食べたり、お酒を飲みたいこともあります。そういったことに対応し、柔軟な生活を送るためには自分の血糖値の変動とインスリンの注射量についてのパターンを知らなければなりません。交流会ではそのような機会を設けるとともに、日々の工夫についての情報交換を行うことで

A
▲あなろぐの会ロゴマーク
…会名の「あなろぐ(analog)」の頭文字：Aをモチーフに、波の形で「超速効インスリン」(非常に速く効くもの)、「緩慢で「超効インスリン」(12~36時間単位で遅く効くもの)」の作用の様子が表示されています。
なお、会名の「あなろぐ」には、人と人が対面で交流する「アナログ」な活動と、より快適にインスリン注射ができるデジタルのインスリンポンプ

公益財団法人
山口きらめき財団
ピュアネットVol.60
「県民活動団体活動紹介」



<http://www.yu-kirameki.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2018/09/535001776f7d5a45eeb8c758305d6498.pdf>

県民活動団体紹介

あなろぐの会
(1型糖尿病大人の会)

代表 岸田 信也

1型糖尿病患者は20歳未満で発症するから小児糖尿病と呼ばれていますが、行政から「難病指定」がなされていないため、医療費を解決する仕組みがなかなかありません。また、インスリン注射の自己負担額は10万円を超えてしまいます。そのため、患者会として活動しています。

2017年5月28日 田植え交流会

2017年9月 周南学校区交流プラザ 熊本県立難病相談センターにて開催した、講演会